

# 社長以外は全員女性



打ち合わせは社長以外はすべて女性。幼児を連れての出席にも寛容だ＝川崎市中原区、菊池康全撮影



鍋田喜一郎社長

川崎のナノテク企業 独自技術で好調

## リケジヨのママが戦力

薬効の浸透性を高める独自の技術を持つ川崎市中原区の中小企業「テクノガード」は、社長を除く従業員全員が女性だ。結婚や出産を機に退職して家庭に入った研究職の女性を採用し、戦力化している。

### 「働きやすい会社目指す」

東急東横線新丸子駅そばのビル1室にある本社。毎月2回の打ち合わせでは、鍋田喜一郎社長(65)を6人の女性が取り囲む。

普段は和やかな雰囲気だが、どの材料を使って研究を進めるかで激しい議論になることも。「現場を知っているのは彼女たち。意見は尊重せざるを得ない」と鍋田社長。自らも3人の娘がいるためか、女性に囲まれている仕事は「まったく苦にならない」と言う。

鍋田社長は製薬会社に在職中、リウマチに効くステロイドを薬に溶かす技術で特許を取得した。独立後は薬の成分を小さくしたり、溶けやすくしたりして患部へ効率よく送り届ける「ナノ化」技術で、がん治療薬や目薬などの製剤化を請け負う。米国の製薬会社からも受注しており、年商は6千万円ほどだという。

鍋田社長以外の6人の従業員のうち、新卒で入社した正社員1人と社長の妻を除く4人がパート勤務。いずれも食品会社や化学メーカーで勤務経験があり、結婚や出産を機に仕事をやめた理系の女性だ。

横浜市や川崎市内、東京都世田谷区から通う。「生活が安定し、家庭のある元研究職の女性はパート勤務を望む人が多い」と鍋田社長は語る。企業から請け負った研究を細分化し、分担してもらうことで短時間働

務を実現している。

医薬品の製剤化を担当する山口千鶴さん(57)は大学卒業後、食品会社で成分分析の仕事をしていたが、エンジニアの夫との結婚を機に4年間で退職し、2人の息子を育てた。営業の仕事も経験したが、口べたで性に合わなかった。2002年に折り込みチラシの求人を見て入社を決めた。

勤務は午前10時から午後5時までで週3、4回。20代の2人の息子も、働き出したときはまだ小学生。子どもが体調を崩してもすぐ休めるのがありがたかった。「フルタイムで働くほどの体力はないが、専門性を生かしたいのでちょうどいい」と話す。

06年に入社した栗原由佳里さん(35)は以前、栃木県内の食品会社で漬けものの商品開発をしていたが、夫の転勤で横浜市内へ転居してきた。長女理帆ちゃん(2)の出産後は、月2回しか会社に出動しない。普段は自宅のパソコンで文献を検索し、特許申請時に競合する内容がないか情報収集する。理帆ちゃんが幼稚園に入園したら、復帰して研究の仕事につきたいと考えている。

同社の今年の仕事始めは7日。正月中、夫や子ども世話に追われる従業員をゆっくり休ませたいとの配慮からだ。鍋田社長は「これからも女性に働きやすい会社を目指したい」と話している。

(鹿野幹男)